

# 「見る仕組み」と「視覚の発達およびその障害」

## ＜視機能発達年表＞

年齢	視機能、視力	視覚の感受性
新生児	明るさに反応 目の前のものに反応し瞬きする 目の前のものを見る行動	生後2～3週は低い
3ヶ月 3～5ヶ月	意識的に見る行動 両眼での共同運動 うちよせの出現 ピント合わせ機能の出現	
6ヶ月	視力0.05～0.07 遠近感の芽生え	
12ヶ月(1年)	両眼での共同運動 視力0.1～0.2	
2年 3年	視力0.4～0.6 視力～1.0	1歳半位にピーク
5～6年 8～10年	ほぼ完成(成人と同様に) 動揺期を過ぎ完成	8歳頃まで続く

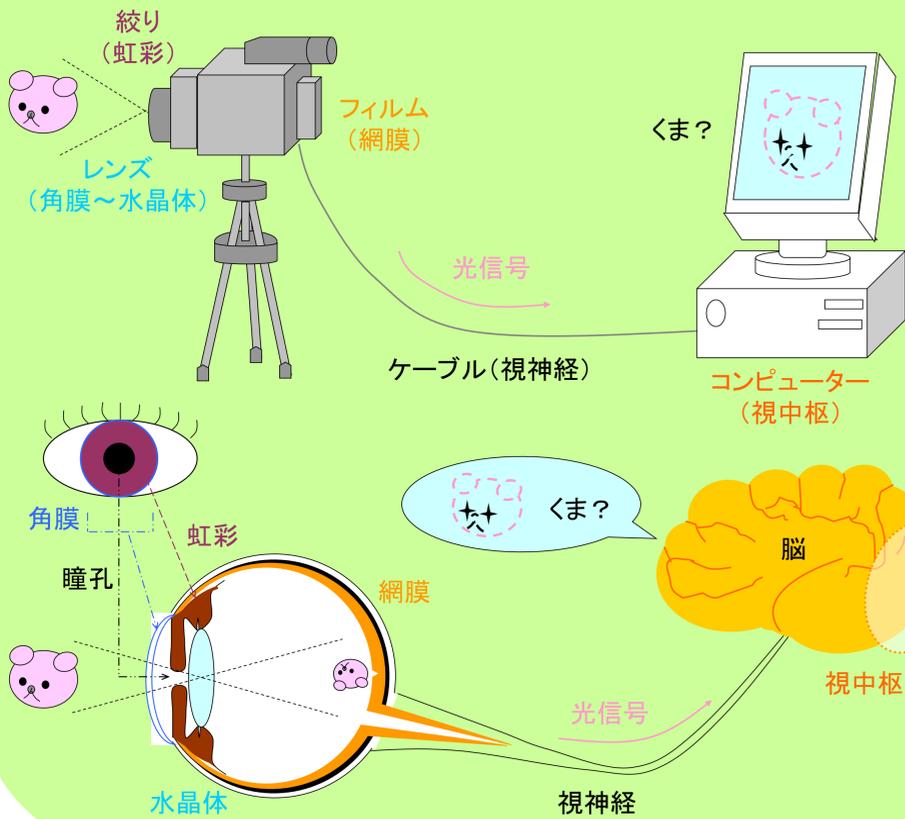
大人と同じような見え方になるには、5～10年もかかります。



人は生まれた時から見えているの？

眼を使い、脳が刺激を受ける事で視機能が発達するんだよ。

私達のモノを見る仕組みは、ビデオカメラと画像処理するコンピューターに似ています。カメラが上手にモノをとらえ、それがコンピューターに送られて解析されたとき初めて綺麗な画像が得られます。



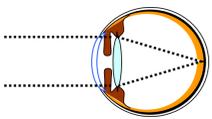
## 弱視とは？

視機能の発達時期に、強い屈折異常、斜視、眼の病気などにより、目からの見た刺激(視覚情報)が脳へうまく伝わらないと、視機能(視力、両眼視など)の発達が遅れてしまったり、とまってしまいます。このような状態を、弱視といいます。

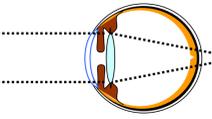
## 屈折異常とは...

眼のレンズ部分の屈折力の強弱や眼の大きさ・歪みなどにより、網膜上にピントが合わず像がぼやけている状態。

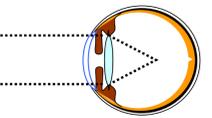
正視(屈折異常なし): 網膜上にピントが合う。  
→近くも遠くも良く見える。



遠視: 網膜の後方にピントが合う。  
→近くも遠くも見えにくい。

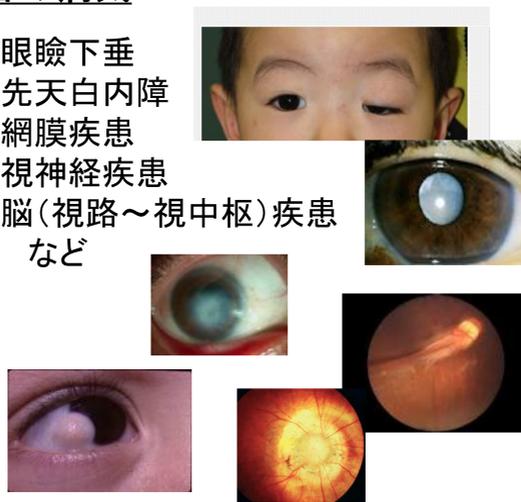


近視: 網膜の前方にピントが合う。  
→遠くが見えにくい。



## 目の病気

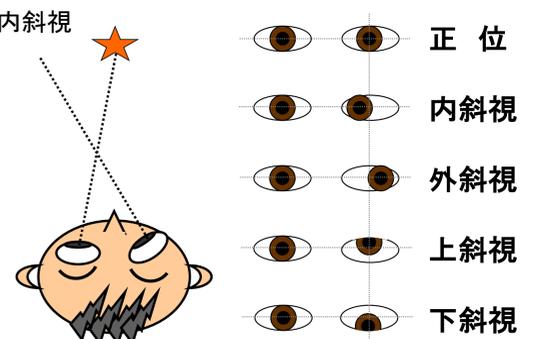
- ・眼瞼下垂
- ・先天白内障
- ・網膜疾患
- ・視神経疾患
- ・脳(視路～視中枢)疾患など



## 斜視とは...

左右眼の視線の方向が異なる。片眼は見たいモノを見ているのに、もう片眼は違う方向を向いている。

例: 内斜視



斜視になると...

- ①視力が出にくい
  - ②両目で見る機能(遠近感等)の不良
  - ③複視(ものが2つに見える)
  - ④目の疲れ等
  - ⑤整容上の問題
- などの問題が出てきます。

視機能は乳幼児期に著しい発達を遂げます。弱視などの視機能の発達の停滞は、この時期の治療によく反応するため、効果的に治療することで正常な視機能の獲得を望めます。早期発見、早期治療が大切です。

